

## 日本の国立公園

国立公園で働く方にその国立公園の魅力を訊きます

国立公園とは、日本を代表する自然の風景地を環境大臣が指定し、自然の保護や利用を図る地域のこと。日本には現在 30 の国立公園があり、裏磐梯は磐梯朝日国立公園に指定されています。

### 「釧路湿原国立公園」

昭和 62 年 7 月 31 日指定 / 陸域面積 28,788ha / 北海道  
温根内ビジターセンターの指導員 本藤 泰朗さんよりご紹介いただきます



釧路湿原を知らなくてもそのシンボルであるタンチョウを知っている方は多いはず。明治時代までに乱獲や生息地の減少などにより絶滅したとされていたタンチョウが大正時代に再発見されたのが釧路湿原です。

釧路湿原保護の歴史は昭和 10 年、「釧路丹頂鶴繁殖地」として国の天然記念物に指定されたことに始まり、後にタンチョウの繁殖地としてだけではなく、湿原自体の価値が認められ、昭和 62 年に国内 28 番目、湿原を中心とする初の国立公園に



タンチョウ

指定されました。

釧路地方独特の霧の多い冷涼な夏の気候が育んだ釧路湿原では、海拔 10m 以下でありながらイソツツジやモウセンゴケなどの高山植物群落が存在し、氷河期の生き残りといわれるキタサンショウウオやエゾカオジロトンボが生息するなど、独特の生態系が見られます。



ミスゴケ湿原 (夏)

温根内ビジターセンターには湿原内を歩ける木道が整備されていて、誰でも気軽に花や野鳥を観察しながら釧路湿原を楽しむことができます。一周約 3.1 km の木道は、ヨシ・スゲ湿原、ハンノキ林、ミスゴケ湿原、湿原周辺の丘陵地といった、特徴的な湿原植生を見ることができるお得なコースですので、釧路湿原を訪れる際には是非お立ち寄りください。



ワタスゲ

◆釧路湿原国立公園連絡協議会 <http://city.hokkai.or.jp/~kkr946/>

## ようこそ！ビジターセンターへ

裏磐梯ビジターセンターの活動を紹介します

### 第 9 回「学生研究発表会」を開催しました！

3 月 16 日(日)に今年で 9 回目となる「学生研究発表会」を開催しました。

今年は福島大学、山形大学、立正大学、文教大学、立教大学の 14 名の学生に磐梯朝日国立公園やその周辺を調査・研究した成果を発表していただきました。今回は口頭発表の他、初めてポスターセッションでの発表もあり、これまでと少し違った雰囲気一般参加者が学生や指導教官の先生に直接質問したり、本物の調査道具や生き物標本にふれたりとお互いにとても有意義な時間を過ごすことができました。



発表内容は地質、水脈、水質、植物、昆虫、風評被害など様々でした。その中に五色沼湖沼群の水質について驚きの発表がありました。今まで沼が青く見えるのは水中にケイ酸アルミニウムのアロフェンという物質があるからだと思われていましたが、アロフェンではなく、ケイ酸アルミニウムではあるがアロフェンではない物質なのだそうです。

他にも多くの興味深い発表があり、学生や指導教官の先生が調査・研究されて得た新しい成果を知るよい機会になりました。